

令和5年度 第1回 安城市総合計画審議会

資料 1

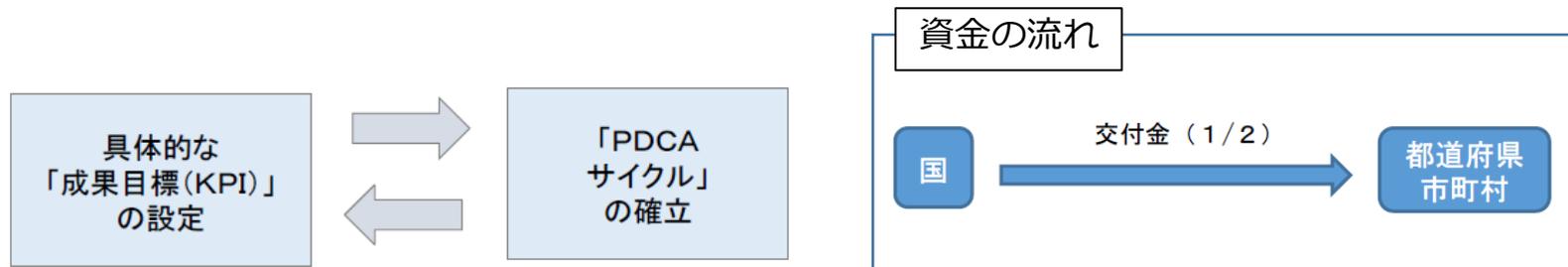
議題 (1)

地方創生推進交付金・拠点整備 交付金に係る事業の令和4年度実績

地方創生関係交付金の制度概要

国の制度概要・目的

- 地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援
- KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援
- 地域再生法に基づく法律補助の交付金とし、安定的な制度・運用を確保
 ⇒地方公共団体は対象事業に係る地域再生計画（概ね5年程度）を作成し、内閣総理大臣が認定
- 交付期間 原則として3年間（最長5年）



地方創生推進交付金活用事業

(1) 「恋人の聖地」観光誘客連携による地域活性化事業

(期間：R2～R4年度)

(2) eスポーツ等デジタルコンテンツを活用した生涯活躍のまちづくり事業

(期間：R4～6年度)

地方創生拠点整備交付金活用事業

(3) デンパークフローラルプレイスリニューアル整備事業

(期間：R元年度)

(1) 「恋人の聖地」 観光誘客連携による地域活性化事業

(期間：R2～R4年度) 【地方創生推進交付金活用事業】

①事業目的

全国の観光地域の中からプロポーズにふさわしいスポットとして民間団体から認定された「恋人の聖地」を有する市町村が連携し、地域の新たな魅力づくりと情報発信を図るとともに、地域間の連携による地域活性化を推進するために、個々の旅行者のデータの収集・共有を可能とするプラットフォームを共同で整備し、旅行者と観光サービスとを直接結びつけ、自立的な『全国規模の回遊促進の実現と、各地域の観光消費拡大と国の観光事業の推進』への寄与を目指す。

連携市町村：山形県村山市、石川県白山市、静岡県焼津市、御前崎市、西伊豆市、愛知県田原市、豊根村、大阪府泉佐野市、泉南市、佐賀県基山町、熊本県美里町

②R4年度事業内訳・事業費 (実績額)

	事業内訳	事業費 (千円)
1	ICTを活用した観光誘客連携事業 (恋人の聖地共同基盤運営)	3,564
2	旅行者登録促進、回遊促進事業	24,120
3	連携市町村の回遊・交流促進PR事業	6,600
合計		34,284千円

③KPI (重要業績評価指標) (R元年度設定)

	KPI (R4年度) 全体 (本市)	実績値 全体 (本市)
プラットフォーム登録旅行者数	129,600人 (9,384人)	54,539人 (1,631人)
協力事業者拠点件数	120件 (10件)	126件 (13件)
旅行者満足度指数	58%	68%



(2) eスポーツ等デジタルコンテンツを活用した生涯活躍のまちづくり事業

(事業期間：R4～6年度) 【地方創生推進交付金活用事業】

①事業目的

eスポーツの年齢、性別、障害の有無、国籍等の垣根を超えたユニバーサルスポーツとしての特性に着目し、eスポーツ等デジタルコンテンツを、高齢者の介護予防や健康寿命延伸、障害者の社会参加や活躍の場の創出に活用し、「ケンサチ（健幸）」なまちづくりを推進する。また、若年層（主に小・中学生）に対し、eスポーツを通してデジタルツール利活用の場を創出し、プログラミング的思考の育成やデジタル・シティズンシップ教育を実施するなど、次世代のデジタル人材育成も推進する。

②R4年度事業内訳・事業費（実績額）

	事業内訳	事業費（千円）
1	イベント企画運営委託	38,879
2	高齢者向けデジタル活用支援委託	2,200
3	公衆無線LANアクセスポイント設置	1,394
合計		42,473千円

③KPI（重要業績評価指標）(R3年度設定)

KPI（R4年度）		実績値
イベント・講演会等の参加者数 (オンライン参加含む)	1,300人	8,904人
イベント・講演会等の開催回数	108回	111回
要介護認定率の減少割合	0.1%	0.05%



(3) デンパークフローラルプレイスリニューアル整備事業

(期間：R元年度) 【地方創生拠点整備交付金活用事業】

①事業目的

フローラルプレイスを、愛を深めるデンパークの象徴としてリニューアル整備する。利用者アンケートより若者世代の入場者数が少ないことが判明しているため、「北欧の街並みの強化」をコンセプトに、恋人の聖地のシンボルとなる塔や異国情緒溢れる温室空間、広い工房などを整備し、若者に人気の施設としながら、恋人や家族など幅広い世代に対応した天候に左右されない集客を確保する。

② R4年度事業内訳・事業費 表はR元年度事業費(実績額)

※本計画のR4年度の施設整備に係る事業費は発生していません。(R元年度実施済みのため)

項目	事業費
【フローラルプレイスリニューアル整備】 シンボル塔新設、イベント広場拡張、店舗・工房新設	341,388千円
【フローラルプレイスリニューアル工事】 トイレの洋式化、北欧の街並みに感じる照明への変更、 安全性向上のための電気設備の設置	41,652千円
(市単費)空調設備更新等	632,523千円
合計	1,015,564千円

フローラルプレイス



③ KPI (重要業績評価指標) (H30年度設定)

KPI (R4年度)		実績値
フローラルプレイス内の店舗等の売上	47,660千円	47,838千円
デンパーク入園者数	550,000人	547,296人



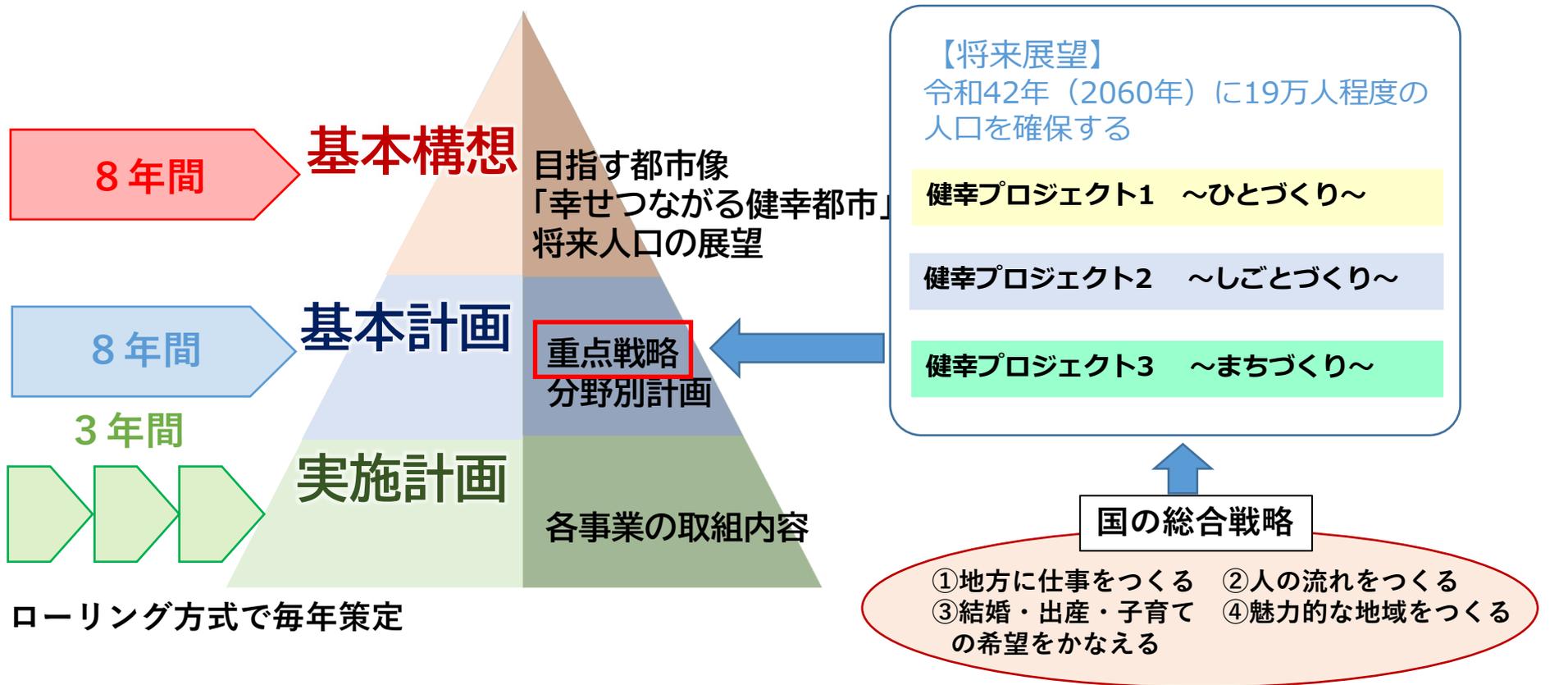
資料 2

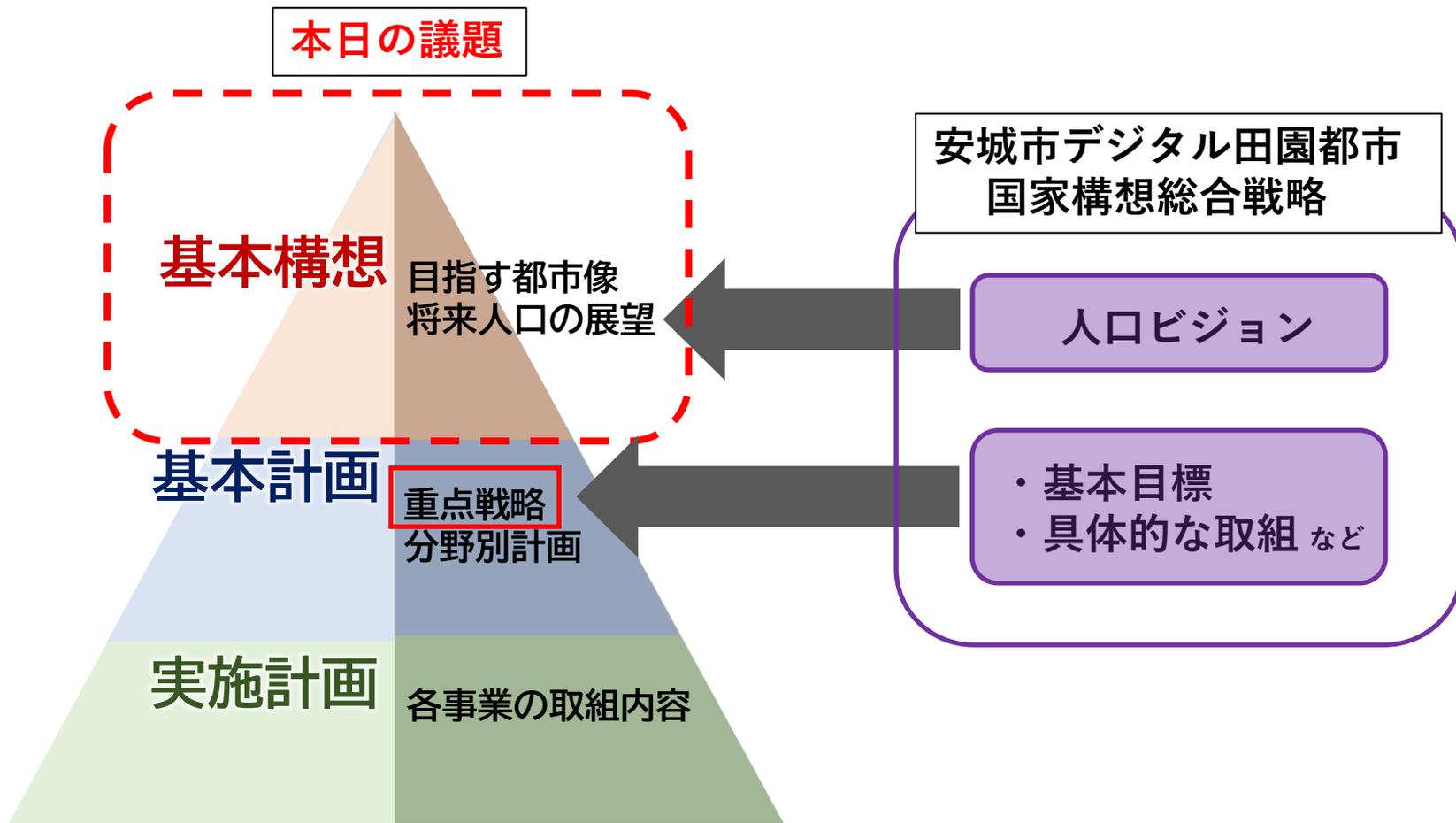
議題 (2)

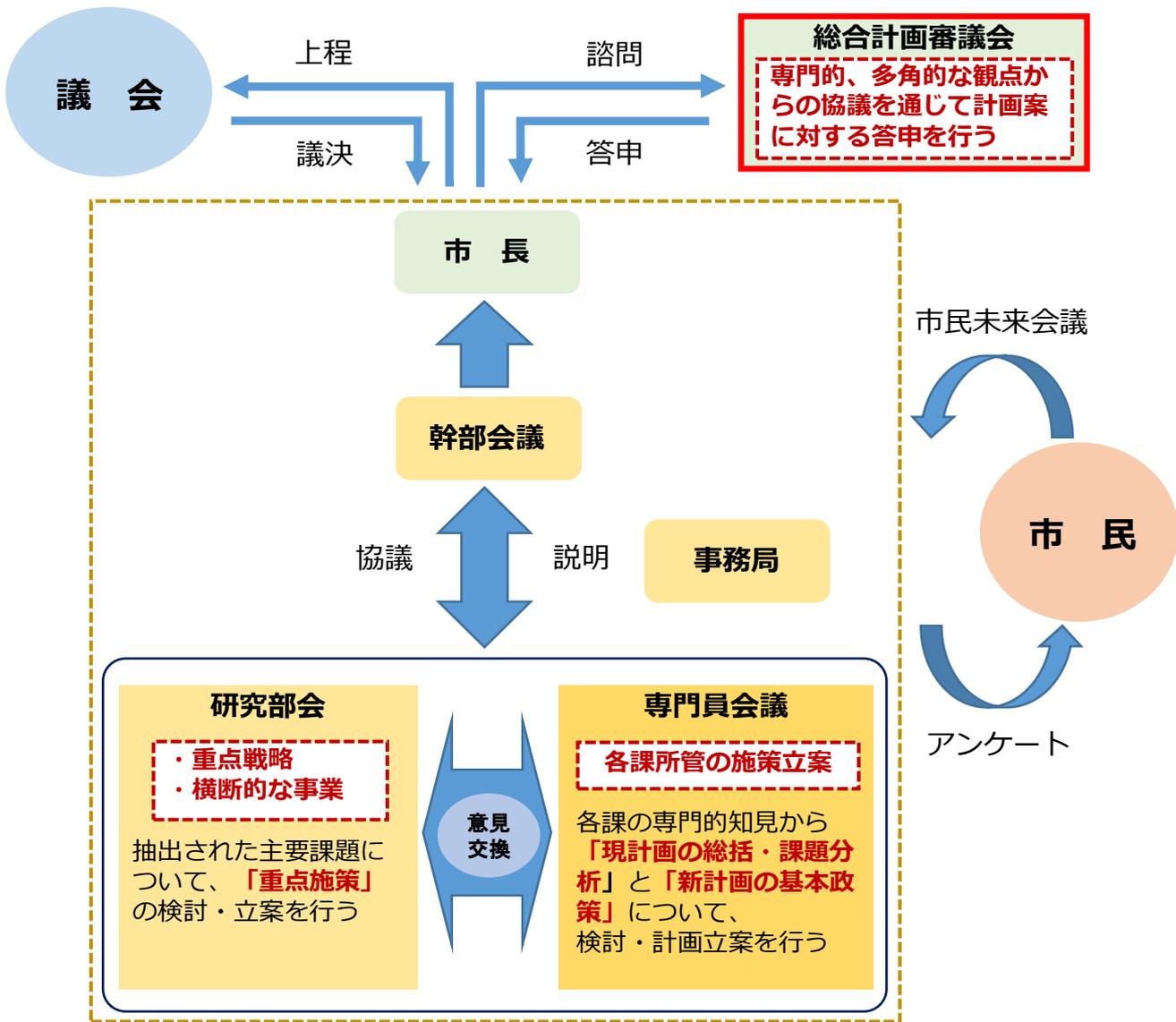
第9次安城市総合計画 基本構想 (素案)

第8次安城市総合計画

第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略







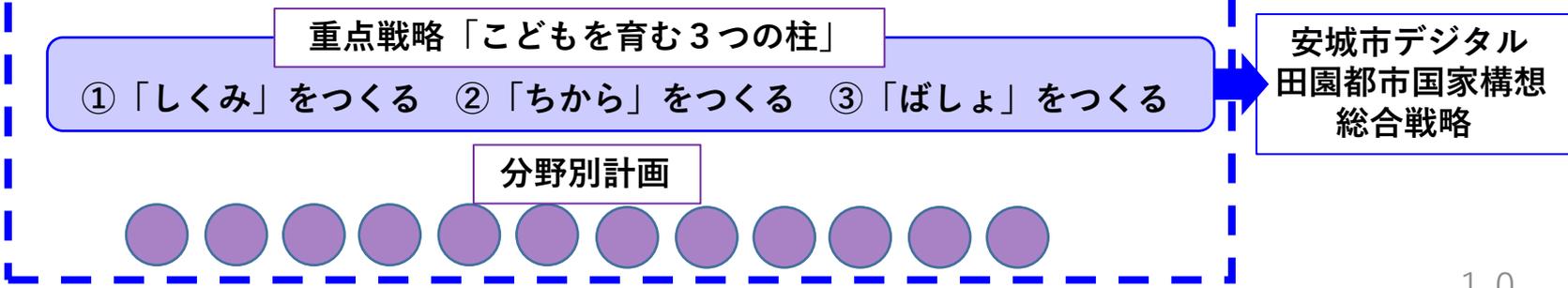
序論



本日の議題 基本構想



基本計画



(例)

ともに育み 未来へつなぐ 次世代のまち

親だけでなく、まち全体で「ともに」こどもやまちを育て、幸せや希望を未来に「つなぐ」ことをイメージ

こどもを育み 未来を拓くまち 安城

農都としてまちの未来を切り開いた本市の歴史をベースに、「こども」をキーワードとしてこれからのまちの未来を切り拓くことをイメージ

本市は、明治用水の開削により、豊かな水に生まれ「日本デンマーク」と呼ばれる農業都市として発展への歩みを始めました。その後、積極的な企業誘致や住環境の整備を進め、ものづくり産業の集積地の一翼を担う工業都市としてさらなる成長を遂げ、都市化が進展してきました。その結果、人口は堅調に増加し、農・工・商のバランスがとれた、都市と自然が調和したまちとして、現在まで引き継がれてきました。

第8次安城市総合計画において、本市は、市民が「豊かさ」と「幸せ」を実感できるまちを目指すという理念のもと、まちづくりを進めてきました。これは、経済的な余裕だけでなく、心のゆとりや人とのふれあい、将来に対する安心など、「豊かさ」や「幸せ」に対する多様な価値観がある中で、市民一人ひとりの幸せを実現することが、自治体行政が担うべき最大の役割であると考えているものであり、第9次安城市総合計画においてもこの理念を継承しています。

全国で少子化が急速に進展し、人口減少が加速していく中、本市でも出生数は減少傾向にあります。まちの未来を担う子どもの数の減少は、持続可能な社会を創るための克服すべき課題です。少子化に歯止めをかけ、本市の未来を次世代に引き継いでいくためには、子どもを核としたまちづくりを行っていくことが必要です。

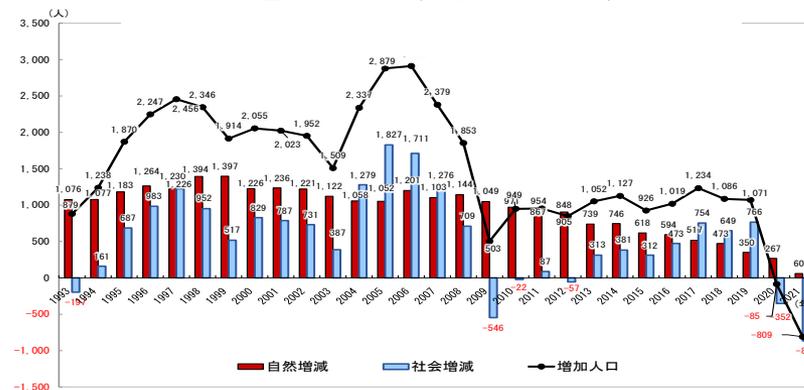
社会全体で子どもを育む環境を整えることが、子育て世代の安心につながり、それがまちの活力を生み出します。子どもたちの存在や、そこから生まれる活力は、まちの将来に対する安心感や期待感をつくり、未来に向けて歩みを進めていくための原動力となります。

地域に見守られ、大切に育まれたたくさんの子どもたちが本市に愛着を持ち、さらに次の世代へその想いをつないでいくことが、まちの明るい未来を創っていきます。まちにとって子どもは未来そのものであり、子どもが健やかに育つ社会が、すべての人の幸せをかなえるまちの姿なのです。

本市は、安心して子どもを育てることのできる仕組みをつくり、市民の豊かな暮らしと地域の未来を支える確かな力を蓄え、安全、安心で誰もが住みたくなる魅力あふれるまちづくりを進めることにより「都市像（検討中）」の実現を目指します。

①

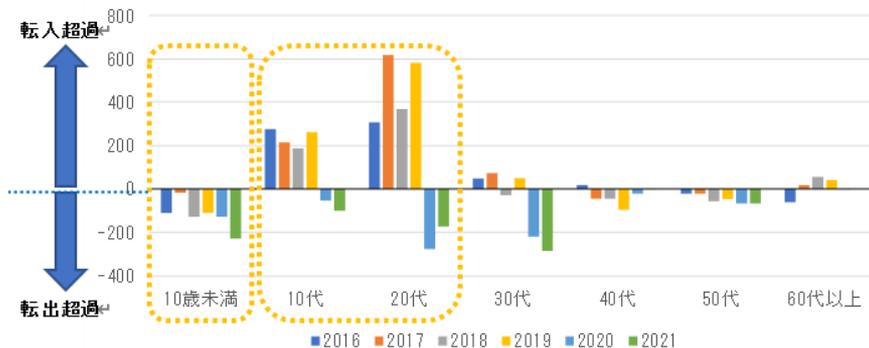
P7 (図2-1)
人口動態 (自然増減、社会増減)



目指す都市像
子どもをキーワードにした都市像

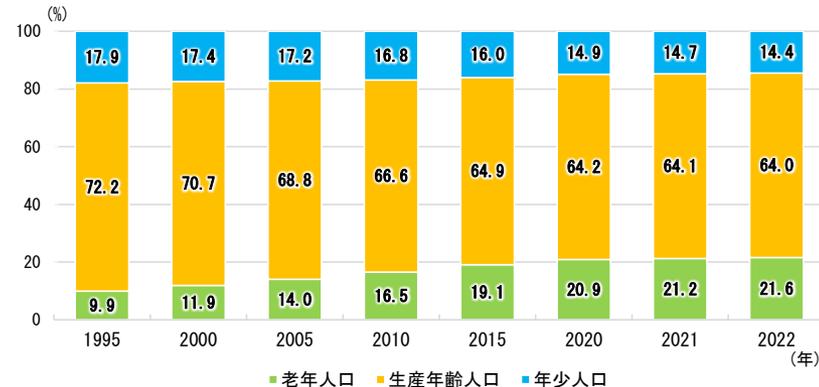
②

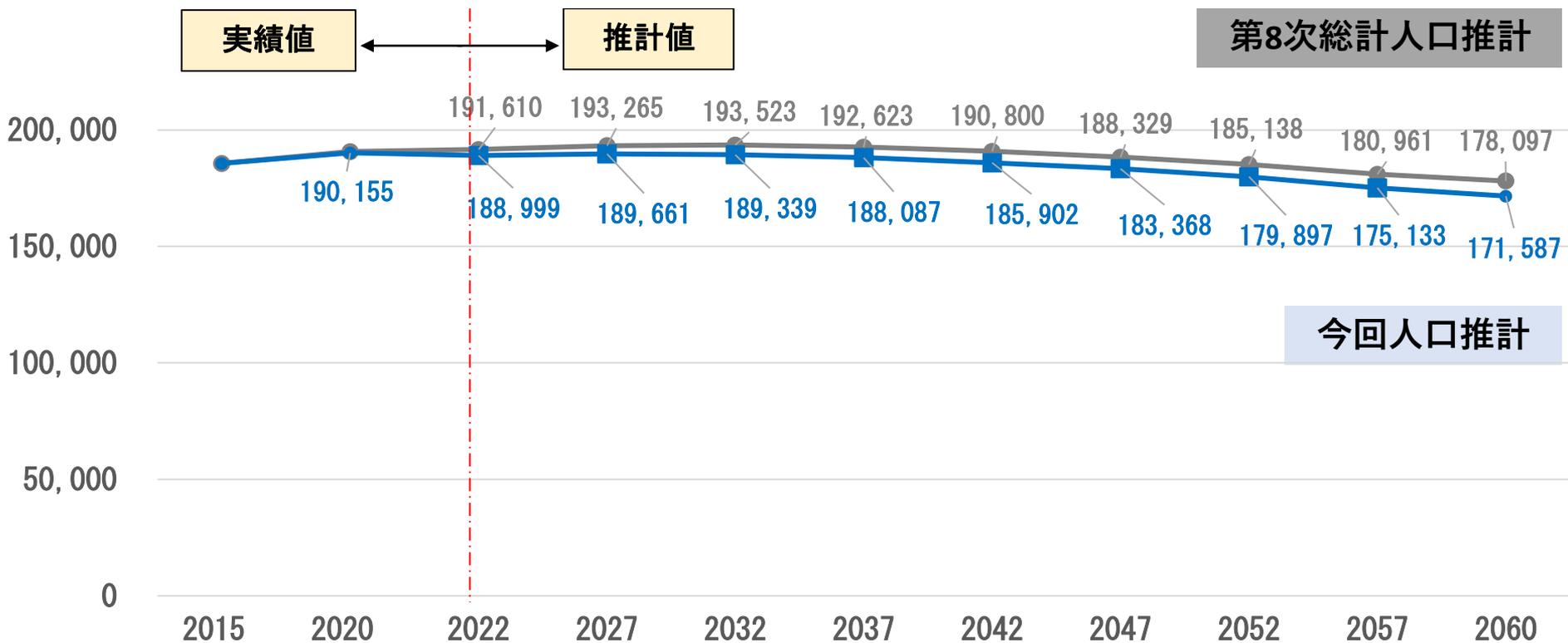
P7 (図2-2)
年代別の転出入状況 (転入超過・転出超過)



③

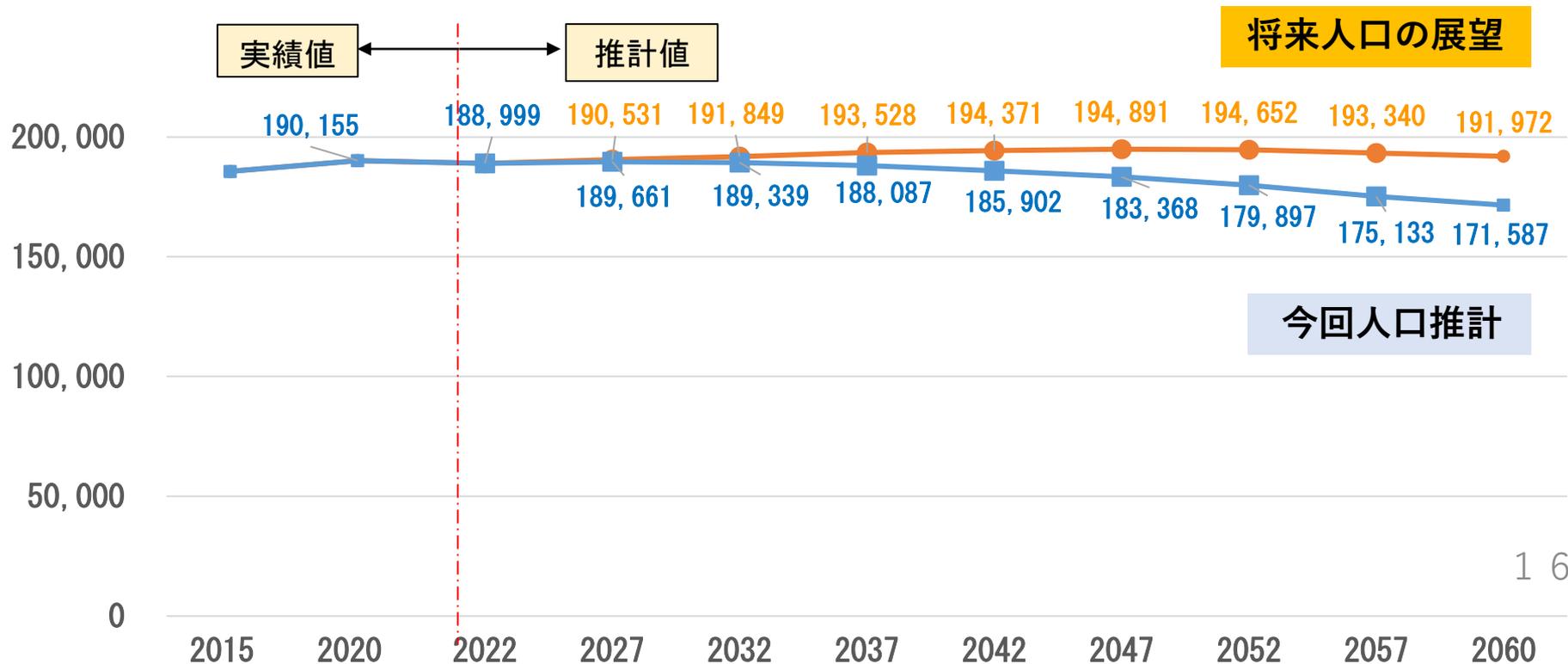
P6 (図1-2)
本市人口・世帯・平均世帯人員の推移





アプローチ

- 出産から子育て、子どもの自立までの切れ目ない支援 → 出生数向上
- 企業立地を始めとした産業振興による多様で力強い産業形成 → 転入促進
- 優良宅地の供給、快適な住環境の形成 → 転出抑制





① こどもを育む優しい「しくみ」をつくる

- ・ 出産・子育ての願いをかなえる切れ目のない支援制度・体制の充実
- ・ 次世代を担う子どもたちが心身ともに健やかに、心豊かに成長できる教育環境の充実
- ・ 家族や地域全体で子どもを育む環境の整備

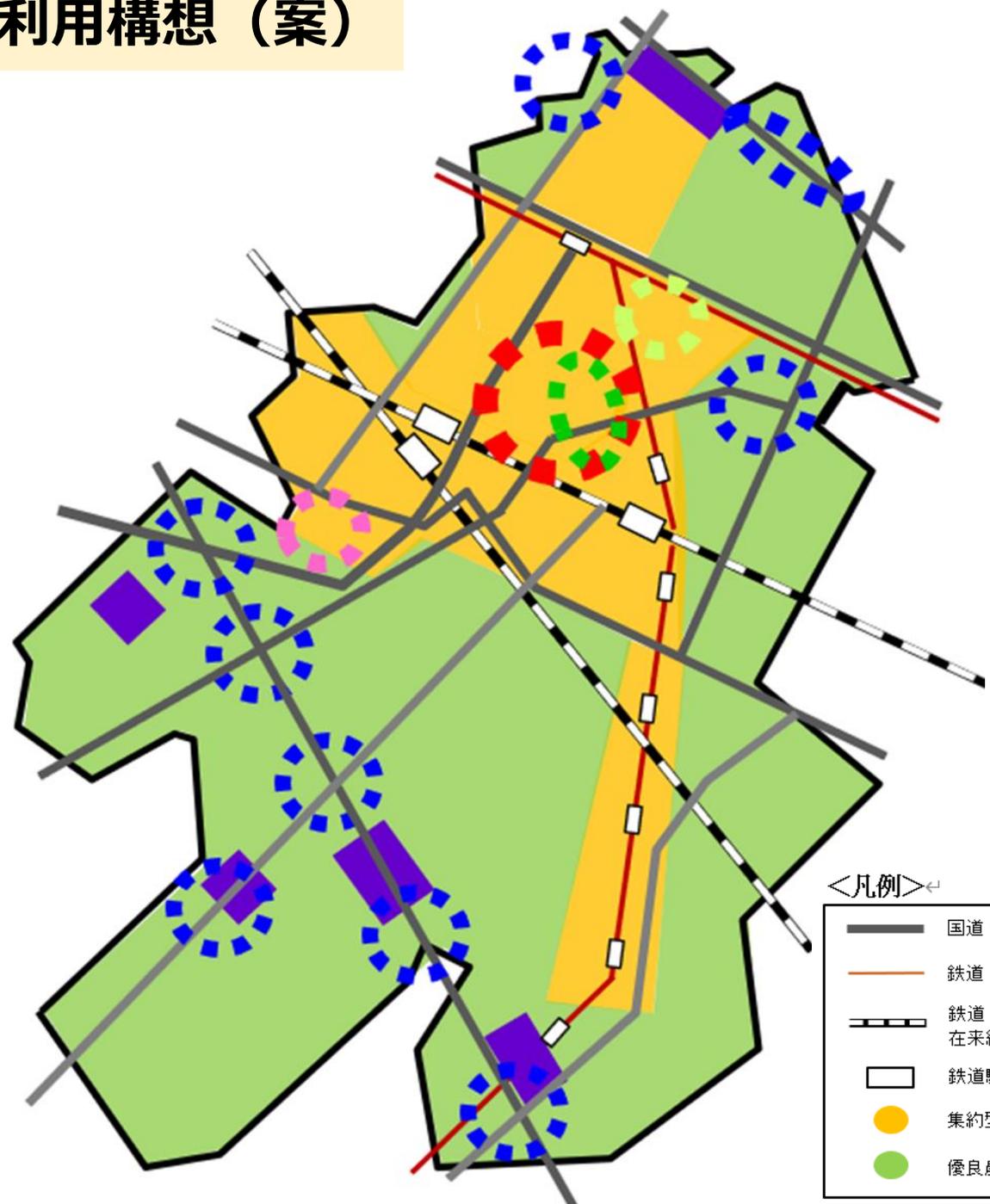
② こどもを育む確かな「ちから」をつくる

- ・ 本市への新たな人の流れを生むための新たな価値創造と市内外への情報発信
- ・ 子どもを生き育てるための所得を稼ぎ出す豊かで多様な雇用（産業）の創出

③ こどもを育む安らげる「ばしょ」をつくる

- ・ 将来に渡り心穏やかな暮らしを可能にする福祉・医療・交通安全といった安心づくり
- ・ こどもを生き育てる暮らしの基盤となる住まいの供給促進

土地利用構想 (案)



<凡例>

	国道・主要な地方道		既存工業エリア
	鉄道(名鉄)		戦略的市街地形成ゾーン
	鉄道(JR) 在来線・新幹線		農業イノベーション創出ゾーン
	鉄道駅		市街地拡大ゾーン
	集約型市街地形成エリア		農住共生検討ゾーン
	優良農地保全エリア		産業ゾーン

開催日時 (予定)

第1分科会

7月21日 (金) 午前10時
8月14日 (月) 午前10時

第2分科会

7月21日 (金) 午後2時
8月14日 (月) 午後2時

第1分科会

施策分野

- ・子育て
- ・学校教育
- ・スポーツ
- ・生涯学習
- ・文化芸術
- ・参加と協働
- ・健康・医療
- ・地域福祉
- ・社会保障

第2分科会

施策分野

- ・都市基盤
- ・農業
- ・商工業
- ・観光
- ・環境
- ・住環境
- ・生活安全
- ・防災・減災
- ・行財政

分科会構成（案）

	所属及び役職等	氏名
第1分科会	愛知教育大学 准教授	佐野 真紀
	社会福祉協議会 理事	石川 誠
	愛知県健康づくりリーダー連絡協議会 会長	加藤 宣子
	小中学校PTA連絡協議会 副会長	神谷 志穂
	株式会社キャッチネットワーク お客様満足創造本部	酒井 麻利子
	ボランティア連絡協議会 会長	筒井 広治
	町内会長連絡協議会 会長	寺田 覚
	さんかく21・安城 幹事	戸田 こず恵
	公募市民	近藤 裕己
	教育委員	久恒 美香
第2分科会	日本福祉大学経済学部 准教授	鈴木 健司
	名古屋大学大学院 情報学研究科・情報学部 教授	安田 孝美
	あいち中央農業協同組合 代表理事専務	渥美 純一
	碧海信用金庫 専務理事	河田 光司
	連合愛知三河西地域協議会 副代表	柴田 知幸
	安城商工会議所 副会頭	富田 清治
	明治用水土地改良区 事務局長	鳥居 卓司
	青年会議所 理事長	野村 直仁
	公募市民	山本 道生
	農業委員会 会長職務代理者	太田 千尋

※敬称略、選任区分ごと、50音順